



International Programs in Language and Culture 2018



北海学園大学人文学部



University of
Lethbridge



Brock University's partnership with Hokkai-Gakuen University

In the wake of our 50th anniversary celebrations here at Brock University year, it is a time for us to reflect on important partnerships we have developed over the years. Our relationship with Hokkai-Gakuen University is one partnership that we certainly value at Brock University.

Just as Brock has grown over the years, so, too, has our partnership with Hokkai-Gakuen University. Since 2000, we have had the pleasure of welcoming students from the Faculty of Humanities to our university. Since 2014 the program has expanded so we also have the pleasure of working with students from the Faculty of Business. These new groups have allowed us to diversify the types of academic activities we can offer, including trips to local wineries, the Niagara Hilton Hotel and the Royal Bank of Canada. At the same time, we see your students actively participating in many of our annual university and local activities such as our Grape Stomp and the Ice Dogs hockey games.

The enthusiasm and energy the Hokkai-Gakuen students bring to our campus every year is wonderful to see. During their short stay, they form new friendships with students from around the world and develop lasting relationships with their homestay families. We are all enriched by their presence in our classes and on our campus.

We hope that as Brock moves into the next 50 years of its founding, our long-standing relationship with Hokkai-Gakuen University will continue to grow. I also hope that I have the opportunity to visit your campus once again in the near future.

Strengthening the HGU-ULeth Partnership

On behalf of the senior administration and myself, I would like to invite you to join our University of Lethbridge International family. The University of Lethbridge is consistently ranked as one of the top small universities in Canada and has a long tradition of providing quality education and helping students achieve their personal and educational goals.

We welcome you into our international family with representation from over 65 countries. You will work with others to gain first-hand information about and insight into Canadian university life. As a member of our International family, you will find plenty of opportunities to connect with other students, both Canadian and international, and have access to all student services.

Make the University of Lethbridge your destination university. See you soon!

人文学部カリキュラムにおける語学文化研修

英米文化特別演習：9月

英米文化特別演習は、9月初旬から約3週間、本学の協定校であるカナダ、レスブリッジ大学（アルバータ州）またはブロック大学（オンタリオ州）のいずれかにおいて、現地の大学の授業を履修するために必要な英語運用能力を養成するプログラム（IELP または EAP）の履修と現地での様々なアクティビティを通じた文化体験による研修です。2014年度からは学生の希望と英語力により、2つの大学のいずれかを選択して参加できるようになりました。参加学生にとってこの研修は、現地での様々な経験や出会いを通じてその後の新たな目標を見つけ、より長期の留学や進学を目指すなど、次のステップに向かうための重要な足掛かりとなっています。是非、多くの学生に参加してもらいたい研修です。



2017年度結団式（経営学部と合同開催）



ブロック大学研修



レスブリッジ大学研修

国際文化特別演習：9月～12月

国際文化特別演習は、英米文化特別演習と同じ時期に上記の協定校2校のいずれかにおいて、現地での1学期（約14週間）を他の国からの留学生と一緒にIntensive English Language Program（IELP、ブロック大学）、English for Academic Purpose Program（EAP、レスブリッジ大学）で大学レベルでの学術研究に必要な英語運用能力を養成するための授業を履修します。3週間という期間の短い英米文化特別演習より、さらに大きな成果が期待されます。この科目は2年次より履修可能で、英米文化特別演習の参加経験の有無を問わず参加可能です。また、現地での学修は履修科目と成績に応じて12単位（過年度）が本学卒業単位として認定されました。

Contents

挨拶	1	レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介 レスブリッジ大学海外研修事業の概要と EAP 授業	9
人文学部カリキュラムにおける語学文化研修	2	レスブリッジ大学のアクティビティ	10
ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介 ブロック大学海外研修事業の概要	3	参加者エッセー [レスブリッジ大学 / 英米文化特別演習]	11
ブロック大学の ESL 授業 ブロック大学のアクティビティ	4	参加者エッセー [レスブリッジ大学 / 国際文化特別演習]	13
参加者エッセー [ブロック大学 / 英米文化特別演習]	5	研修までの流れ	15
参加者エッセー [ブロック大学 / 国際文化特別演習]	7	海外研修事業の歴史	16
		Photo Gallery	17

ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介

St.Catharines市

カナダ、オンタリオ州南西部に位置するセント・キャサリンズ市（City of St. Catharines）は、ナイアガラ地域では最も大きな都市です。果樹園やぶどう園、ゴルフコース、史跡などに囲まれ、緑あふれる景観からガーデン・シティ（The Garden City）とも呼ばれています。手入れのゆきとどいた美しい公園と 200 を超える温室があり、カナダの温室産業の基地ともなっています。

トロントからは車で 1 時間、ナイアガラの滝には 20 分弱と近く、ナイアガラ観光に適した都市でもあります。また、トロントとアメリカのバッファローの中間という位置でもあり、アメリカからも多くの人が訪れます。ワイナリーは 45 以上もあると言われ、カナダ最大のワインの産地としても知られています。



セント・キャサリンズ市



ブロック大学

ブロック大学とは

ブロック大学は、セント・キャサリンズ市にある 1964 年に設立された総合大学です。大学名は、1812 年の戦争（War of 1812）の軍功で名高いアイザック・ブロック（Isaac Brock）の名にちなんでいます。中規模ながら充実した学術プログラムが国際的にも評価され、応用健康科学部、経営学部、教育学部、人文学部、数学科学部、社会科学部及び大学院が設置されています。また、留学生向けには充実した英語集中講座があります。

※ブロック大学公式 HP <http://www.brock.ca/>

ブロック大学海外研修事業の概要

今日は社会の多文化化にともない、日常語としての英語の普及および実践的な多文化適応力の養成が求められています。ブロック大学と本学とは 2000 年に交流協定を締結し、9 月上旬からの 3 週間、IELP（Intensive English Language Program: 英語集中講座）に学生を派遣しています。2014 年度からは科目名を「英米文化特別演習」と改め、1 年次からの参加が可能となりました。さらに 2015 年度からは 2 年次から参加できる「国際文化特別演習」として、9 月上旬から 12 月中旬までの秋学期、約 3 ヶ月にわたり IELP を履修することを可能としました。両演習とも英語圏の大学での就学に必要な英語運用能力を習得することが主要な目的ですが、ホームステイや様々な文化活動を通じて、カナダの文化・社会についても理解を深められるのも特徴の一つです。研修を通じて得られるもう一つの経験は多文化主義の実体験です。研修期間中、学生たちは中南米、アジア、中東各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を受けることになります。様々な国の学生と友好を深め、視野を広げる機会となり、積極的な授業参加や発言の場ともなっています。

ブロック大学の ESL 授業【プレイスメント・授業内容等】

ESL クラス

平日 8:00 ~ 16:00

学生は3つのクラス（スピーキング・リスニング、リーディング・ライティング、プロジェクト）を受講します。

●自身のレベルに応じて学習

プレイスメントテストの結果に応じて、レベル0（英語入門クラス）からレベル5（大学入学準備クラス）までの6つの段階に習熟度別にクラス分けされます。

●いろいろな国からの学生と共に学習

アジア・中東・中米・南米などから来ている学生たちと共に学びます。

●授業は、英語だけを使用

世界中から学生が集まるため、お互いにコミュニケーションを図る際は、英語を使用しなくてはなりません。授業中だけでなく、大学構内では他の言語を使用せず、英語だけを使うよう勧められています。



ブロック大学のキャンパス



①ブロック大学でのオリエンテーション ②③④ブロック大学の教室で

ブロック大学のアクティビティ【トロント小旅行・遠足等】

英米文化特別演習では英語授業の履修による教室内での学習に加え、教室の外で行われる様々なアクティビティを通じて自分の目的に応じたコミュニケーションをとりながら英語を学ぶ機会が設定されています。

アクティビティは、世界的な観光地であるナイアガラの滝の見学・ボートツアー、レイクサイドでのバーベキュー、ワイナリー訪問、セント・キャサリンズ市庁の訪問、ナイアガラ・オン・ザ・レイク訪問など多岐にわたります。週末には、カナダ最大都市であるトロントへのデイ・トリップが行われ、運良くトロント国際映画祭の開催時期と重なれば、世界中から映画関係者やファンが訪れる国際都市トロントの非日常的な一面も垣間見られるかもしれません。

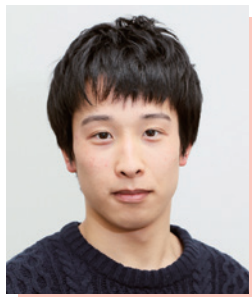
この他にも大学の行事であるぶどう踏み祭り（Grape Stomp）やキャンパス内のコンサート、ボランティア活動などにも自主的に参加することができます。これらアクティビティに積極的に参加すれば、現地の学生や住民との出会いを通じてさらに現地の文化を学ぶことが期待できます。



①②ナイアガラの滝の見学 ③ワイナリー訪問 ④セント・キャサリンズ博物館訪問 ⑤キャンパス内のコンサート ⑥ぶどう踏み祭り

3 Weeks

3週間の語学研修を終えて



境田 壮汰

SOTA Sakaida

1 部英米文化学科 1 年



私は今回英米文化特別演習のカナダ語学研修に参加しました。その理由は1年生のうちに色々なことに挑戦してみたいという思いがあったからです。しかし、初めての海外だったので不安と緊張でいっぱいでした。英語を流暢に話せるわけではなく、人見知りもよくしてしまうからです。それでも、実際に行ってみるとそんなにうまく話すことができなくても、他の人たちとなんとか会話をすることができました。

現地ではホームステイをしました。日本とは文化も大きく違うことに加えて、ルームメイトもいました。とても良い人たちで、3週間はあっという間に過ぎてしまい、終わったときには帰りたくない気持ちになりました。ホストファミリーはカナダの文化について多くのことを教えてくれました。このような経験ができることは、日本ではないのでとても良い経験となりました。現地では大学の授業で学び、観光を含めた多くのイベントにも参加しました。とにかく現地の人や、他国の留学生たちも積極的に話しかけてくれるし、日本に比べて何かと自由な印象を受けました。

観光で最も思い出に残っているのは、ナイアガラの滝を訪れたことです。クルーズ船に乗って滝の間近まで行くことができ、その迫力に圧倒されました。今回このような経験をして、もっと外国について多くのことを学びたいと思い、また海外に行きたいと強く感じています。これからは今回の経験から、さらに勉強してTOEICのスコアを上げることや、世界の文化について学び、将来に生かしていきたいと考えています。

今、留学に興味を持っている人にはぜひ英米文化特別演習などの機会を使って行ってみることを強くお勧めします。多くの人が英語をうまく話せないからなどと考えたりしますが、実際に行ってみれば、そんな必要はないとわかります。ぜひ参加して、英語と文化を学び、視野を広げる経験をしてほしいと思います。



3 Weeks

My Dear Family



三森 梨花

RIKA Mimori

1 部英米文化学科 1 年



初めての留学、初めてのカナダ、初めてのホームステイ。全てに「初めて」が付く今回の留学は、毎日が刺激的で学べるものがたくさんありました。留学が始まる前は期待に胸を膨らませていたが、実際にホストファミリーに会うと緊張とネイティブの発音に全くついていくことができず、いきなり言葉の壁にぶつかりました。本場の英語は難しく、話すスピードも速いので、最初の方はあまり聞き取れず、かなり苦労しました。でも、常に英語で話す、という環境は今までにはない経験で、これからもそのような機会は多くないので、今となってはとても貴重な時間だったと感じます。

特に、私のホストファザーは映画やテレビ番組を観ることが大好きで、毎日みんなで夜に映画鑑賞をしました。もちろん音声は英語で、字幕がついたとしても英語でした。最初は戸惑い、みんなが映画の内容で盛り上がっている中、私はそれを聞いて眺めることしかできませんでした。ある日には、*Tim Horton* というカナダで有名なカフェに行きましたが、最初はメニューも聞き取ってもらえず、聞き取ることもできませんでした。そんな自分が嫌でしたが、英語の勉強が足りないことを改めて見直すきっかけにもなりました。

それでも、1 週間ほど経つと、だんだん耳が英語に慣れ始めて、会話や映画の内容もわかるようになり、お店の店員の人も話が通じるようになってきて、その瞬間とても嬉しく感じました。もっと長く英語に触れたいと思う毎日で、3 週間の留学はあっという間に過ぎていきました。振り返ると全てがとても良い思い出になりましたが、何よりホストファミリーと韓国人のルームメイトと過ごす日々が私にとってはとても幸せな時間でした。毎日会うたびハグをしてくれて本当の娘のように接してくれたホストマザーとファザーに感謝しています。そんな世界一すてきなホストファミリーを、私も本当の家族のように思っています。



14 Weeks

カナダでの留学生活



秋元 真衣

Mai Akimoto

1 部英米文化学科 2 年



私にとって日本を出ることは今回が初めてであったということもあり、実際にカナダでの生活を始める前は大きな緊張と不安がありました。しかし、現地の人の優しさに触れたこと、学校では英語を学びたいという同じ目的を持つ友人もたくさんできて、不安とは無縁なとても充実した生活を送ることができました。さらにホストマザーは私を本当の娘のように扱ってくれ、時には映画を一緒に見て、雪が降った日にはブーツを貸してくれようとしたこともありました。そんなマザーをはじめとするホストファミリーのおかげで寂しさを感じることも少なかったと思います。

また、私は今回の留学生活を通して様々な経験を得ることができました。特に自分の英語が通じたということから得られた自信が1番の経験でした。クラスには色々な国からの留学生がいて、カナダ人であるホストファミリーのもとで生活もしました。その中で私の発音が悪かったり、文法が間違っていたりしてもみんな理解しようとしてくれ、実際にコミュニケーションを取ることができました。

もちろん、私を含めクラスメイトは英語を母語とする人たちのように会話できるわけではありませんでした。それでも、14週間を共に過ごした後、私たちの間に大きな友情が生まれていました。このことから、どんなに発音が良くても気持ちが伝えられなかったら意味がないと感じ、英語を話す上で重要なことは必ずしも流暢に話すことができるということではないと、自分自身もさまざまな国の英語を聞く環境の中で気づかされました。

留学というのは私の中でとても大きな挑戦でしたが、後悔のない有意義なものであり、成長することができました。もし留学を迷っている人がいたとしたら、ぜひ勇気を持って一歩踏み出してみたいと感じています。



14 Weeks

カナダ留学を通して



澤田 勇大

YUDAI Sawada

1 部英米文化学科 2 年



カナダ留学に行って日本とカナダの違いを知る良い機会となりました。

カナダでの生活を通して私はカナダに住んでいる人の日本人にはない優しさに触れることが出来ました。道に迷ったり、バスが分からないで少しきよろきよろしていたりしているだけで話しかけてきてくれて親切に教えてくれることも多くありました。日本にいてもこのようなことはあると思いますが、日本語のかたい敬語が人と人の間に壁を作っていると感じました。それに対し、日本語ほど敬語がない英語ではとてもフレンドリーに感じられました。また、カナダで毎日英語に触れることによって、英語が持つニュアンスを理解することが出来ました。日本語に訳すと同じ意味でも少し違うニュアンスで訳されていると思うことが多々ありました。カナダ留学に行って英語の勉強法が大きく変わりました。英語を日本語で勉強するのではなく、英語は英語で勉強しようと思いました。

これから留学を考えている人やすでに留学が決まっている人は英単語を英語で理解して覚えることを強くお勧めします。そうすることによって、英単語を聞いたり、見たりした時に日本語に変換しなくてすむので瞬時に理解することが出来ると思います。返答の早さにも繋がるので挑戦してみたいです。カナダに行ってからすべきことはたくさん人と英語でしゃべることです。カナダには同じく留学に来ている日本人も多くいるので、日本人とずっと行動を共にするのではなく、現地の人と多くの時間を費やして欲しいと思います。自分の部屋にこもっているのではなく、ホストファミリーと会話をしたり、外に出て、隣人と話してみたり、お店の人と話したりすると英語を話すのが楽しくなりますし、日常会話の向上にも繋がります。

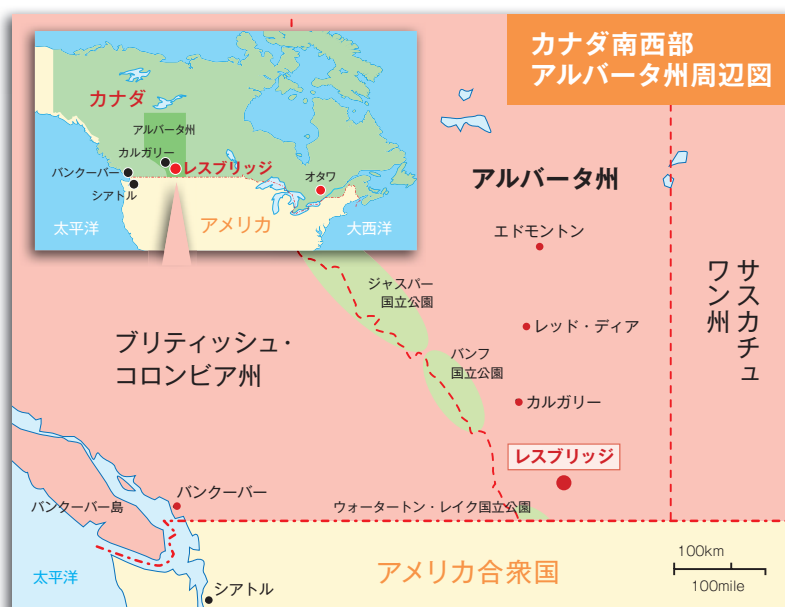


レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介

Lethbridge市

カナダの西部のアルバータ州に位置するレスブリッジ市 (City of Lethbridge) は、州内でカルガリー、エドモントン、レッド・ディアに次ぐ4番目の人口 (現在 93,004 人) を有する都市です。カナディアンロッキーの近くに位置するため、夏は涼しく (平均 26℃)、冬もさほど厳しくなく (平均 -2℃)、2時間南下すると、ロッキー山脈沿いのウォータートン・レイク国立公園に入り、1時間ほどでアメリカに行くことができます。

レスブリッジ市は南アルバータの商業、金融、交通、そして工業の中心で、19世紀後半からは炭鉱を中心に、20世紀初頭からは農業を中心に発展してきました。労働人口の半数は衛生、教育、小売、宿泊飲食産業などに携わっています。第二次世界大戦中、ブリティッシュ・コロンビア州から強制収容された日系人がレスブリッジ郊外の農村地帯に住んでいたという歴史を持ち、日系人の比率が比較的高いと言えます。2011年の国勢調査によれば日本人人口は1,575人 (そのうち日本語を母語として話す人口は320人)。現在、青森県十和田市と沖縄県南風原町と友好姉妹都市を結んでいます。また日加友好日本庭園 (Nikka Yuko Japanese Garden) が市の南部にあります。



レスブリッジ大学

レスブリッジ大学とは

レスブリッジ大学は、1967年州立大学として創立された南アルバータにおける唯一の総合大学です。南アルバータの3つのカレッジのうち2つが市内にキャンパスを構え、人文・社会学部、芸術学部、健康学部、理学部、経営学部、看護学部、演劇学部、音楽学部の八つの学部と大学院で学士・修士・博士課程の教育が行なわれ、150以上の学部課程のプログラムと大学院課程のプログラムを有します。在学生は8,400人 (500人は世界87カ国からの留学生) で、2014年『マククリーン』(カナダの時事雑誌)の大学の評価と、2013年 RESEARCH Infosource (研究大学を評価するサイト)において、いずれもカナダ国内の大学3位にランクされています。教育は少人数クラスと小コミュニティのなかで行なわれるのが特徴で、英語を母語としない学生のためのプログラムも毎年、春、夏、秋学期に提供しています。

レスブリッジ大学海外研修事業の概要とEAP授業

レスブリッジ大学と本学は1986年から提携を結んで学生交換事業を行ない、現在まで隔年ごとに多数の学生を相互に派遣してきました。グローバル化が進展するなか、この学生交換事業は「語学研修」と「交流体験」を通して英語の養成と国際性の涵養が目的とされ、多くの実績と豊かな経験を蓄積してきました。

2014年度から人文学部は、上記の事業にさらに「海外研修事業」を加え、学生が「英米文化特別演習」として、9月上旬から約3週間、また「国際文化特別演習」として約3ヶ月間、レスブリッジ大学が提供するEAP (English for Academic Purposes) のプログラムに参加できるように決定しました。EAPとは、英語を母語としない学生のためのプログラムで、大学で学ぶために必要な英語を習得する集中講座で、リーディングとライティング、コミュニケーションを専門講師から学び、初級から上級までのクラスレベルがあります。

研修期間中、学生たちは、南米諸国、中東、アジア各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を

受けることになります。また、ホームステイや世界各国からの留学との交流を通して、あるいは日加文化活動の参加と国立公園への探訪などの体験を通してカナダ文化に触れ、多文化主義をも体験することができます。

【授業内容例】

- 受講生はプレイスメントテストにより初級から上級までの3つのレベルに分けられ、それぞれのレベルでリーディングとライティング、コミュニケーションの2コースを受講します。
- 2018年度からレスブリッジ大学での研修を本学の「英米文化特別演習Ⅱ」（2単位）または「国際文化特別演習」（受講科目に応じる。過年度は12単位。）として履修可能となり、研修終了後にレスブリッジ大学から送られてくる成績評価に基づき、学部教授会で単位が認定されます。



様々な国からの留学生たちと



①②レスブリッジ大学の教室で ③学食で ④修了式で

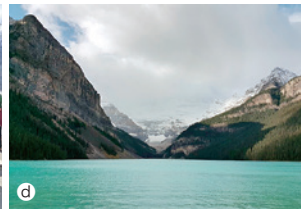
レスブリッジ大学のアクティビティ【日本庭園やウォータートン国立公園等】

生きた英語力を身につけ、より流暢に英語を話し、多様な価値観と国際性を涵養するためには、教室だけでは不十分です。さまざまなアクティビティを通して、豊富な体験をすることも必要です。

例えば、ある参加学生は、日本語を学ぶ同世代のパートナーと休日に日本庭園や英語環境のなかの日本文化イベントのお茶会に参加したり、和食レストランに行くなどのアクティビティを通して、とても感動したという体験談を報告しています。あるいは、金曜日は授業が早く終わるので、放課後にバーに行き、お酒を飲みながら話し、カナダ人のほぼ全員が踊ると言われているラインダンスを教えてもらったり、普段の授業の日もパートナーとお昼を一緒に食べたりすることで、よい友人関係を築き、帰国するときには離れたくなくてとても寂しかったという話もありました。戦前から日本と特別な関係があるレスブリッジ市ならではの体験ができるそうです。

また、Waterton National Park（ウォータートン国立公園）を散策した学生は、同じプログラムに参加した韓国からの留学生と一緒に行動し、英語を通してカナダでの異文化を体験しています。ハイキングで川の近くまで迫ったとき、壮大な湖と雄大な自然に感動して撮った風景は、どれもこれも絵になるような写真ばかりだったそうです。

参加者全員は、市民ホールで開かれたレスブリッジ市主催の国際留学生のための「グローバル・ナイト・パーティ」に参加しました。ゲーム、会話、ダンスなどで（食事込みで\$2のみ）、大いに楽しんだとのこと。



⑤日本庭園 ⑥日本文化イベントのお茶会 ⑦⑧ウォータートン旅行

3 Weeks

I never forget this life in Lethbridge!



高橋 莉奈

RINA Takahashi

1 部英米文化学科 2 年



カナダでの3週間は、私にとって人生で最も貴重な体験をした日々となりました。大学の講義だけではなく、英語でのコミュニケーション、文化理解など日本にいただけではわからない多くのことを経験できました。まず、私がカナダでとても強く感じたことは、レスブリッジの人々はフレンドリーな人が多いということです。レスブリッジの人は、バスに乗ったときに誰にでもあいさつをしている人がいて、私も実際にキャンパスで話したことがない学生にあいさつをされたことがありました。私はこのようなことは日本ではほとんどないことなので、とても不思議に感じました。また、大学でできた友達も、お店で楽しそうにコミュニケーションをしていて、誰とでも気軽にコミュニケーションができる雰囲気この街がとても素敵だと感じました。

私は3週間の間で、ホストマザーが開くホームパーティに参加したり、一緒に映画を見に行ったり、レスブリッジ大学の学生とは一緒にスポーツをしたり、コスメを見に行ったりと、いろいろなことをして充実した日々を過ごしました。学校では、他国の大学からきた留学生とも会話ができて、私の英語能力はまだ乏しいということを実感させられました。私は、この経験を通して、英語でコミュニケーションすることの楽しさと難しさの両方を実感したので、さらに英語を勉強して、もう一度海外留学に挑戦したいと考えるようになりました。また、私は将来日本語教師になりたいと考えているので、他国の文化についても、もっと多くのことを知らなければならないと感じました。

3週間はとても短く、あっという間に感じられました。私は、とても人見知りでしたが、そんなことは言ってもらえませんでした。そして、自分から積極的にコミュニケーションをとることでとても充実した日々を過ごせることがわかりました。英語力に不安を感じる人もいると思いますが、私はとにかく話したい、伝えようとする意志が一番大事だと思います。日本にいただけではわからないことをたくさん知り、経験することができました。



3 Weeks

カナダ・レスブリッジでの3週間



荒 優河

YUGA Ara

1 部英米文化学科 3 年



私は唯一3年生での参加でした。今回参加を決意した理由は、英語圏で生活することで英語をもっと身近で深く学びたいと思ったことと、英語のコミュニケーションスキルを上達させたいという明確な目標が自分にはあったからです。一方で、就職活動の準備にも手を付け始めなければならず、定期的にプログラムに参加することに対して心配や不安がありました。しかしこの留学を通して、日本ではできない貴重な経験や現地の人々との交流が自分を大きく成長させてくれました。

留学中に特に私が印象に残っていることは、授業以外の時間は友達になったレスブリッジ大学の学生たちと毎日遊んで過ごしたことです。ショッピングや運動、食事などそれらは多くのカナダ文化を知る機会となり、同時に楽しみながらも英語を話す練習の場ともなりました。彼らとは帰国した今でも時差に負けず毎日連絡を取り合っていて、通話やSNSで近況報告などを行っています。

一方で苦労したことは、初めの一週間は英語や環境にも慣れず、相手の言いたいことを理解できなかったり、自分が言いたいことを伝えることができない状況がありました。例えば、私は家からバスで大学に通っていましたが、ホストファミリーからの説明をあいまいに理解していたので、バスの乗り継ぎを失敗しました。私は失敗から学び、わからないままにせず尋ね直すようにしました。最終的には、会話が毎日の楽しみになり、成長を実感できました。

私はこの3週間が短いようで長く感じました。おそらくそれは毎日が充実していたからだと思います。留学中は初めての出会いや経験ばかりで毎日が刺激にあふれていましたが、留学後にも向こうの友達とのやり取りで英語を使う機会が継続できていることには、留学に行った意味があったと実感しています。



14 Weeks

たのしい、しんどいが人を強くしてくれる～カナダ3ヶ月留学体験談～



本間 敦彦

ATSUHIKO Honma

1 部英米文化学科 3 年



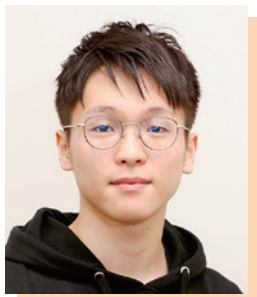
私は国際文化特別演習によるカナダでの3ヶ月間の留学は、必ず将来のために有意義な経験になるだろうと考えている。それは英語力の向上に限ったことではなく、ホームステイや友人づくりなどを通して、文化の違いを知り、国際交流を重ねた結果、そう言えるものであると私は思う。パンフレットを読む多くの人の疑問は、留学に行って果たして英語力は伸びるのかどうかだと思う。伸び幅は人それぞれあると思うけれど、確実に向上すると私は考えている。日本では確実に体験することのない英語に囲まれた環境。日本語が通じないから、英語で物事を考え、発信しなければいけない。英語を話す中で発音だったりアクセントが自分の知っている英語と違い、伝わらずに渋い顔をされた時は本当に辛かったけれども、これが英語の伸びに影響すると思う。最終的に私は英語圏の人が話すことを8割程度は理解できるようになり、日本では経験することの少ない英語のアウトプット（主にスピーキング）が英語におけるコミュニケーション力を高めてくれたと感じている。また、留学先においてコミュニケーションを取る場面は人によって多少違うと思う。大学、ホームステイ先、あるいは友達といるときか…。私は大学の授業や授業後にオフィスに訪問して先生と話すことが多かった。家ではゆっくり休んでメリハリをつけて、大学ではたくさん英語に触れる。自分にとってはこれが一番しっくりきていたのでこのようにしていたけれど、これも人によって違うかもしれない。人によっては、英語圏の友達を作り、耳と口を英語に慣らしていた人もいたし、ホームステイ先の家族とのコミュニケーションを楽しんでいた人もいた。どういうやり方を選ぶかは、その人次第だろう。さらに、もう一つカナダでの貴重な経験は、人に対して、特に家族に対して感謝の気持ちがとても大きくなったことだと思う。日本の家族は、いかに自分のためにいろいろなことをしてくれていたのか、いかに自分のために時間を割いて自分を優先してくれていたのか。日本にいる時はむしろざっと思いっていたが、本当にカナダにいる間に家族の大切さを痛いほど感じ、家族には常日頃から感謝しなきゃいけないということを、私と同じように感じる人も多いのではないかなと思う。

私は将来英語を使う仕事に携わるつもりで、現在も英語を使う機会がある。帰国してすぐに英語を使って話す場面があった際にとっさに言葉が出てきて、留学前は時間がかかったものが、すぐに出るようになったので成長を実感できた。私にとってカナダ留学は決して良いことばかりではなかったが、確実に経験して正解だったと言える。



14 Weeks

留学経験・Experiences in Canada



織田 凌祐

RYOSUKE Oda

2 部日本文化学科 3 年



今回、3ヶ月間の国際文化特別演習の参加を通して、たくさんの素晴らしい経験をすることができました。その中でも、一番の目的であった英語力の向上はもちろん、現地の方々の物事の見え方や価値観などから刺激をたくさん受けました。現地の大学生の勉強に対する姿勢や、社交的な人々の価値観に学ぶべきことが多くあると感じました。常に英語が使える環境にあり、ホストファミリー、ルームメイト、現地でできた友人たちとの生活は刺激的でとても充実していました。

参加した語学学校の EAP (English for Academic Purpose Program) のクラスは日本人 6 割、韓国人 3 割、中国人 1 割の上級クラスで、主に現地での大学入学準備レベルの英語を、Reading & Writing、Communication の 2 つの授業で週に 4 回受講するものでした。Reading & Writing では、3 回のエッセイ課題、英語で書かれた本の読解、Communication では、プレゼンテーションやディスカッションをメインに授業が進みました。講義自体は難易度が高く、時々くじけそうにもなりましたが、学習面のサポートが充実していて、特に EAP の講師の方々のサポートがとても頼りになりました。また、フィリピン系のホストファミリーと韓国人、コロンビア人の留学生との生活は大変充実していて、かけがえのない時間を過ごしました。

先生方、家族、友人たちのサポートがあり実現した、海外を意識し始めた高校生の頃からの目標であった今回の海外留学を通じて、より一層、海外での生活することに憧れを抱くようになりました。今回の経験を生かし、残り少ない大学生活をさらに充実したものにしていきたいと思うとともに、レスブリッジでの生活の中で見つけた課題に積極的に挑戦していきたいと考えています。

この国際文化特別演習では、素晴らしい環境の中で英語の習得やカナダの自然、文化に触れることができます。1 学期 (9 月～12 月) の期間ではありますが、とても貴重な経験になると思います。積極性や目標を持ってぜひ参加してほしいです。



研修までの流れ



海外研修事業の歴史

■人文学部 英米文化特別演習／国際文化演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	引率教員	参加学生数	委員
第1回	ブロック大学	平成12(2000)年度 7月7日～8月13日	宝利 尚一 米坂 スザンヌ	18名 (男子7名、女子11名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
第2回	ブロック大学	平成13(2001)年度 7月8日～8月12日	井上 真蔵 岩崎 まさみ	22名 (男子5名、女子17名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
第3回	ブロック大学	平成14(2002)年度 7月7日～8月11日	桑原 俊一 上野 誠治	20名 (男子3名、女子17名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
—		平成15(2003)年度 SARSの流行により中止			米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 大石 和久
第4回	ブロック大学	平成16(2004)年度 9月4日～9月26日	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ	25名 (男子2名、女子23名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ
第5回	ブロック大学	平成17(2005)年度 9月4日～9月25日	栗原 豪彦 米坂 スザンヌ	24名 (男子4名、女子20名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第6回	ブロック大学	平成18(2006)年度 9月3日～9月24日	中川 かず子 イアン・マンビ	20名 (男子6名、女子14名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第7回	ブロック大学	平成19(2007)年度 9月2日～9月23日	上野 誠治 池内 静司	22名 (男子4名、女子18名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第8回	ブロック大学	平成20(2008)年度 9月1日～9月21日	桑原 俊一 本城 誠二	23名 (男子0名、女子23名)	岩崎 まさみ 上野 誠治
—		平成21(2009)年度 世界流行のインフルエンザにより中止			岩崎 まさみ 上野 誠治
第9回	ブロック大学	平成22(2010)年度 9月5日～9月26日	岩崎 まさみ ウィリアム・ケイ	27名 (男子5名、女子22名)	米坂 スザンヌ 岩崎 まさみ 中川 かず子
第10回	ブロック大学	平成23(2011)年度 9月4日～9月25日	田中 洋也 ウィルマ・ルース	26名 (男子5名、女子21名)	米坂 スザンヌ 寺田 吉孝
第11回	ブロック大学	平成24(2012)年度 9月3日～9月23日	岩崎 まさみ ジェレミ・ブシャー	24名 (男子8名、女子16名)	米坂 スザンヌ 田中 綾
第12回	ブロック大学	平成25(2013)年度 9月1日～9月22日	上杉 忍 ブリックリン・ゼフ	13名 (男子3名、女子10名)	米坂 スザンヌ テレングト・アイトル
第13回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成26(2014)年度 8月31日～9月21日	柴田 崇 米坂 スザンヌ	14名(男子2名、女子12名) 12名(男子3名、女子9名)	米坂 スザンヌ 田中 洋也 テレングト・アイトル
第14回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成27(2015)年度 9月6日～9月27日	ジェレミ・ブシャー	14名(男子2名、女子12名)	米坂 スザンヌ 上野 誠治 ジェレミ・ブシャー
第15回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成28(2016)年度 9月6日～9月23日	米坂 スザンヌ	12名(男子2名、女子10名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー
第16回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成29(2017)年度 9月6日～9月22日	大森 一輝 テレングト・アイトル	13名(男子6名、女子7名) 12名(男子8名、女子4名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー
第17回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成30(2018)年度 9月3日～9月21日	森川 慎也 ジェレミ・ブシャー	11名(男子7名、女子4名) 10名(男子4名、女子6名)	米坂 スザンヌ 渡部 あさみ ジェレミ・ブシャー

■人文学部 国際文化特別演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	参加学生数	委員
第1回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成27(2015)年度 9月8日～12月18日 平成27(2015)年度 9月9日～12月17日	3名(男子1名、女子2名) 3名(男子2名、女子1名)	米坂 スザンヌ 上野 誠治 ジェレミ・ブシャー
第2回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成28(2016)年度 9月6日～12月16日 平成28(2016)年度 9月7日～12月15日	3名(男子2名、女子1名) 3名(男子2名、女子1名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー
第3回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成29(2017)年度 9月6日～12月16日 平成29(2017)年度 9月7日～12月15日	3名(男子1名、女子2名) 3名(男子2名、女子1名)	米坂 スザンヌ 本城 誠二 ジェレミ・ブシャー
第4回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成30(2018)年度 9月4日～12月14日 平成30(2018)年度 9月4日～12月14日	2名(男子1名、女子1名) 2名(男子2名、女子0名)	米坂 スザンヌ 渡部 あさみ ジェレミ・ブシャー

Photo Gallery

Brock & Lethbridge







平成31年3月発行

北海学園大学 人文学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号

TEL: 011-841-1161 (内線2132)

FAX: 011-824-7729

北海学園大学 URL: <http://hgu.jp/>

北海学園大学人文学部 URL: <http://human.hgu.jp/>

edit: Labbott

